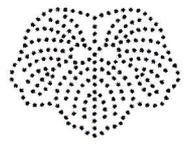


「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへ挨拶に伺う。という気持ちでお届けしています。



りゅうま伝

58号
2024年9月26日
高野 龍馬

「勉強ってなあに？」

秋の夜長、読書にはまっています

高野です。これも亡父の「教

育」のお蔭でしょうか。

父は私が生まれてくるのが

待ち遠しかったようで、生ま

れて首がすわると同時に中

洲のクラブに夜な夜な連れ

て行ってくれたそうです。

そんなことをする一方で物

心つくと毎日のように「生涯

勉強だぞ」と言う人でした。

勉強ってなあに？」

「良い本を読んで、良い文章

を書くことだ！」

「良い本って何？」

「読めばわかる」

この姿勢は生涯徹底して

ました。父はどんな経済状態

でも月に一度は大きな本屋

さんに連れられて行き、3人の子と

もに、こう命じました。

「今から一時間、時間をやる。

好きな本を好きなだけ持っ

てこい」と言われた通り好きな

だけ本を買ってくれたのでした。

高額な専門書を買って貰っ

たのに読まないこともありま

した。「読んではないけど怒らな

いの？」と聞くと、「いっか読む

ならそれで良い。お前が本当

に興味関心を持ってその本を

読んだ時、初めてその本が

お前の血となり肉となる。

本はムカにはならない」と

言いました。

残念なことには、私は父が望む

である本が送られて来まし
た。アマゾンなんかまだない
時代です。温泉旅館の女
将、佐藤幸子さんが書いた
「おかみ」という本で、開くと
最初にも、こう書かれてあり
ました。

「若旦那さん、失敗も出来ない
ような人にならないでね。築地
の料亭の女将に私が青年の
頃、そう言われた。その言葉
は山あり谷ありの人生の中で
私が決断に迫られた時に、
いつも生きた。」

失敗を恐れるなというメッセ
ージを最後の最後まで私
に伝えたかったのだという。
そんな経験があったからか、最
近読んだ「サイゼリヤの法則」に
載っていた母から息子（サイ
ゼリア社長）への手紙に目頭
を熱くしました。

「大きなことを成し遂げるた
めに力を与えてほしいと神
に求めたのに、謙虚を学ぶ
ようにと弱さを授けた。」

偉大なことをできるようと
健康を求めたのに、より良き
ことをするようにと「病氣を
賜った。」

幸せになろうとして、富を求
めたのに、懸命であるよう
にと貧困を授けた。

世の人の賞賛を得ようと
成功を求めたのに、得意にな
らないようにと失敗を授けた。

これはアメリカ南北戦争時の
兵士の詩だそうで、株式を店
頭公開する息子への戒めの
言葉として送ったようです。

いつの時代も親は子どもに
生きる術、「教育」
という財産を残し
たいのだなって思
いました。

私もかくありたい
ものです。



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikai.com> x-1l fp.takano@gmail.com